

第 12 期第 8 回 長野市緑を豊かにする委員会 会議録

開催日時	令和元年 7 月 17 日(水) 午後 1 時 30 分から
開催場所	長野市ふれあい福祉センター4 階 会議室 4-3
委員出席者	委員 14 名（欠席 1 名）
傍聴者	報道機関 1 名
事務局出席者	公園緑地課次長他公園緑地課職員 9 名
公開・非公開	公開
次第	会議次第 1 開会 2 委員長あいさつ 3 長野市あいさつ 4 職員紹介 5 議事 1) 今後の緑化事業の見直しについて 6 報告事項 1) 長野市緑を豊かにする計画について 2) 城山公園基本構想（素々案）について 3) 篠ノ井中央公園サウンディング型市場調査の結果について 7 その他 8 閉会

議事

【要旨】

1) 今後の緑化事業の見直しについて

資料に基づき、事務局説明

(委員) 資料をいただいたが正直ショック。基金の推移はもちろん、18年間、花と緑大賞の実績の数字を見てびっくりしています。何とも言い難い気持ちです。花と緑大賞が今年度廃止ということをごく最近知らされた。公共花壇、公園等一生懸命やってきたのにいきなり廃止と聞いてみんなやる気を無くしている。皆さんにこういう問題があります、どう思いますかと聞いて検討してほしかった。話し合うのは大事。意見を出し合ってもっと幅広く検討していく必要がある。活動資金が無くなっていることは一目瞭然。危機的状況だということに本当にびっくりしました。

(委員) 事務局的には、今回この件を出して委員の皆さんに意見をお聞きし、事務局としては今後、どうしていくか検討する手順だったのかと。いきなり公表ではなく委員の皆さんに回り、幅広いご意見を聞きたいものと思いました。緑化基金の推移を見ると、花と緑大賞も今までと同じようでは予算的には厳しく、例えば賞金や謝礼金として出していたものに予算をかけずに盛り上げるなど長期的な視野で考えていくことが必要。

(事務局) 予算は少なくなってきましたでしたが、やり方等皆さんの意見をいただきたい。

(委員) 先程からお金の話が多く出ていますが、問題はそこではないですね。長野市は緑を豊かにするという方向でこのような会議もしている。緑化をしている人たちが高齢化しサークルが消えていっている。花と緑大賞を一回休むとしたらその速度を加速させてしまうのではないか。どんな形でも是非継続する方向でお願いしたい。一回休んだことが消滅の原因になってしまうのではないか。

	(議長) 緑化推進費という形で令和2年度は廃止しますとか見直しますということを挙げていただいています。予算的にだけでなく必要なものについては市としては進めていきます、という申し出もありました。緑育協会も今後厳しい状況で事業を進めていかなければならないなかで、知恵を絞りながら進めていきたいという説明をいただきました。団体の皆さんにもご理解をいただきながら今後も必要なものは継続していったほしいというご意見であったと思います。他にご意見いただけたらと思います。 (委員) ながの緑育協会が設立された平成26年度からなので5年前から予測はできたと思うがなぜこのタイミングなのか。 (事務局) 緑育協会の事業について、長野市としても協会が補助金が無くても一人立ちし活動していけるよう力を入れて進めていく予定でしたが、実際はそういう状況にはならなかった。市としても数年先の段階が見えますので、基金から一般財源化にということを財政課と折衝してきましたが、基金で対応できるうちは基金からという回答であり、この時点までそれぞれの事業を進めてきました。緑化緑育については、長野市の条例で定められており、財源は変わっても推進はしていく。 (委員) 令和2年に補助金廃止ということだが、本当に必要なら予算計上して補助することが考えられるのか。 (事務局) 補助金としての支出はないということです。今後は出来高に対して支出していくということです。 (委員) 補助金を無くしたらどんな状況になるか目に見えていますよね。「はい、切りました。後は皆さん、考えてやってください」と言われているように思うのですが、市の事業としてももう少し真剣に予算化の方向に向けて取り組んでほしい。
--	---

(事務局) 補助金は今後廃止しますが、緑育協会には長野市の指定管理者になっていただいているので篠ノ井中央公園、茶臼山自然植物園の管理をお願いしている。協会の事業も見直しスリム化する。長野市で行う事業の三本柱の一つの緑育を担う団体なので無くなる事は想定していない。

(委員) 今年度作ったばかりの「長野市緑を豊かにする計画」では、「緑育の拠点となる場所の整備を進めながら」と書いてあるのだから当然、予算をつけると長野市が宣言している。基金の話はともかく、財政が厳しいのは分かるが緑を継続してやっていくというのは市が最近作った計画に書いてあるので逆にこれを果たさないとはありえない。予算をとって欲しい。

(事務局) 今後は、委託等契約の相手方として支出していくということになりますので、一般財源からの支出を予定している。緑化緑育を推進することはゆるぎないものがあります。ただ、いままであった基金が自由に使えるとか、豊かなものではなくなってきている。これからは精査し、重点的にやっていく。

(委員) 基金が無くなっていくというのは分かりました。今後は前向きに予算をとっていくのを応援します。
茶臼山基金はすごく反響が大きかった。今後は公園バージョンでもやっていったらどうか。「今、こういう状況である。寄附をください」と市民に投げかけたら助けてくれると思う。これから協会はサウンディングを通して自分たちで稼いでいく方法を模索していくと思うがお金が入るよう頑張ってもらいたい。

(委員) 花と緑大賞の応募者数が減少しているのが気になる。今後継続するにしても、やり方を変えるのには今までの応募者の皆さんの要望や意見を聞く機会を設けたらいいと思う。財源的な問題もあるので、賞金型から表彰型にしながら市の方針を伝え、応募者が増えるアイデアを出してもらおうなど。

	(委員) 長くやってきたがはっきりと目に見えて成果が見えないという話があったが、人と時間とお金をかけてきたものに成果が見えないのは残念。来年は見直して大きく変えていかないと。例えば、小学校の活動を紹介したものを冊子にまとめ配布すると相乗効果で広まっていく。 (委員) 花と緑大賞についてですが、賞という形で順位をつけるのではなく、我が家、我が事業所の緑化自慢を紹介するというのはどうか。広まっていくと思う。それぞれが楽しみながら工夫しながらやっているのをホームページや冊子で紹介する形で順位をつけなくてもいいのではないか。 (委員) 事業所の周辺に植込みがあったら自分の事業所の前ぐらいは草取りしましょう。この精神を緑化緑育の長野モデルとして花と緑大賞の評価の中に入れてもいいと思う。 (委員) お金をかけずに緑育を広めていくこととして、応募を待っているだけでなく、発信できるインスタグラムやフェイスブック等でこちらから発見、発掘、発信、紹介していくのもいいと思う。 2) 「長野市緑を豊かにする計画」について 事務局より報告 3) 城山公園基本構想の素案について 事務局より報告 4) 篠ノ井中央公園サウンディング型市場調査結果について 事務局より報告 (委員) 城山再整備についてですが、長期で 30 年、50 年かけてとありますが、先が長すぎてもう少しなんとかありませんか。 (事務局) この 50 年というのは、今、公園内にはいろいろな施設がありまして、今、造っているのは新しい信濃美術館、
--	--

噴水広場。今すぐにすべてを建て替えるのはありえない。建て替える時期がずれてくる。それぞれの建て替えや改築のタイミングで整備する。

(委員) 市は費用対効果については考えないのか。

(事務局) 担当課と連携してこの計画を進めている。建物の耐用年数も加味しながら計画を進めている。

(委員) 建物の耐久性からして大丈夫だから後回しという意味合いよりも防災の面から考えて今、やるべき所に重点を置いてやるべき場所や時期を考えるという書き方にした方がいい。地震や災害はいつあってもおかしくない。ゾーンにこだわらず前倒しすべきとの認識があればそのように書いた方がいい。

(事務局) 本日はありがとうございました。委員の皆様にはご審議いただき感謝申し上げます。今回の会議が12期の最後の会議となりましたが、今期の委員会は計画の改定を行うことが大きな目的であり、多くの会議を重ね、貴重なご意見をいただきました。誠にありがとうございました。以上をもちまして第12期第8回緑を豊かにする委員会を閉会いたします。